

西暦	時代名	年号	日本の政治・経済・社会・文化	尼崎の政治・経済・社会	尼崎の文化・教育	『わたしたちの尼崎』 (小学生用副読本) 平成15年版	掲載頁	『尼崎の歴史』 (中学生用副読本) 平成15年4月刊行版	掲載頁	『尼崎の文学』 (中学生用副読本) 平成15年3月改訂版	掲載頁
BC 500 ころ	縄文晩期							猪名川川床遺跡、藻川川床遺跡、口酒井遺跡(伊丹市)	p.4-5		p.5
BC 300 ころ	弥生			このころ上ノ島で稲作が始まる このころから田能で人々の生活が始まる		田能しりょう館	p.99-100	田能遺跡	p.6-10		p.6
400 ころ	古墳			このころ水堂古墳、大塚山古墳がつくられる				水堂古墳、池田山古墳、大塚山古墳	p.12-15		
500 ころ	古墳			猪名県主などの豪族が支配した				御園古墳、伊居太古墳、大井戸古墳 若王寺遺跡	p.12 p.15-16		
645	飛鳥	大化1	大化改新								
700	飛鳥	(文武)4		このころ猪名寺が建てられた							
710	奈良	和銅3	奈良(平城京)に都を移す								
723	奈良	養老7	三世一身法を定めた								
743	奈良	天平15	墾田永年私財法を定める							猪名川と武庫川の争い『住吉大社神代記』(天平3年?)	pp.14-15
756	奈良	天平勝宝8		長洲、浜、潮江あたりが東大寺領猪名荘となる				東大寺領猪名荘	p.17-20	『万葉集』と猪名・武庫 猪名野、猪名の湊、猪名から武庫、武庫の浦、武庫の泊、武庫川、髭の渡し	pp.15-18
759	奈良	天平宝字3	(『万葉集』なる：年代のはっきりしている歌はこの年の正月の作が最後。『万葉集』は、これ以後20～30年の間に成立したと考えられている。)							武庫川の水脈を速みか赤駒の足掻く激に濡れにけるかも 住吉の榎津に立ちて見渡せば武庫の泊ゆ出る船人 武庫の浦を漕ぎ廻る小舟粟島を背向に見つつ羨しき小舟 我妹子に猪名野は見せつつ名次山角の松原いつか示さむ 大海に嵐な吹きそしなが鳥猪名の湊に舟泊つるまで しなが鳥猪名野を来れば有馬山夕霧立ちぬ宿はなくして	
784	平安	延暦3	長岡に都を移す								
785	平安	延暦4		淀川と神崎川とがつながれた 神崎川河口の河尻の泊がさかえる				金楽寺貝塚遺跡(奈良、平安、鎌倉時代の複合遺跡)	p.21	金楽寺貝塚	pp.6-7
794	平安	延暦13	京都(平安京)に都を移す								
935	平安	承平5						河尻の泊(紀貫之の記録)	p.22-23		
998	平安	長徳4						長洲住民の活動(「鴨御祖大神宮牒案」東大寺摂津国古文書)	p.18		
1000	平安	長保2	枕草子このころ成る 拾遺和歌集(勅撰集巻の三)このころ成る							勅撰和歌集(『拾遺集』、『後拾遺集』、『後撰集』)、『平中物語』 猪名野、猪名の笹原、長洲の地名、菅公(菅原道真)伝説	pp.20-24
1016	平安	長和5	藤原道長が摂政になる(摂関政治)							あな恋し行きてや見まし津の国の今もありてふ浦の初島 世の憂きを思ひながすの浜ならば我さへ共に行くべきものを 人知れず落つる涙は津の国のながすと見えて袖ぞ朽ちぬる 有馬山猪名の笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする しなが鳥猪名の伏原飛び渡る鴨が羽根音おもしろきかな	
1055	平安	天喜3		東大寺領内で秦成重ら豪民(大名田堵)が反抗した				猪名荘	p.18		
1062	平安	康平5						橘(立花)御園と摂関家	p.20-21		
1084	平安	永保4		長洲が鴨神社(京都)の御厨(みくりや)になる				鴨神社と長洲浜	p.18-20		
1192	鎌倉	建久3	源頼朝が鎌倉に幕府を開く							『平家物語』(義経と大物の浦の合戦)→『ひらがな盛衰記』	pp.28-29

1205	鎌倉	元久2	新古今和歌集(勅撰集の八)成る。(藤原定家編集)							(江戸時代)、『船弁慶』、『義経千本桜』 「史跡 寺江亭址伝説地」の石碑 『高倉院巖島御幸記』の寺江亭についての記述 『源平盛衰記』(逆櫓論争 ... 義経と梶原景時の論争) 藤原定家著『明月記』... 河尻(神崎)から有馬街道を歩く 藤原経子『中務内侍日記』 ... きふねの浦	
1213	鎌倉	建保1	金槐和歌集(源実朝)成る 平家物語、宇治拾遺物語成る。								
1221	鎌倉	承久3	承久の乱がおこる京都に六波羅探題を置く								
1228	鎌倉	安貞2		源時光が棕橋(くらはし)荘内の新補地頭となる							
1235	鎌倉	嘉禎1	「小倉百人一首」このころ成る								
1250	鎌倉	建長2		このころ富松郷、浜郷が春日社に寄進される							
1275	鎌倉	建治1						門前町のにぎわい(大覚寺所蔵絵図 大覚寺の建立年は不明)	p.24-25		
1287	鎌倉	弘安10		一遍上人が尼崎に布教に来る							
1301	鎌倉	正安3		このころ神崎や河尻に、東大寺や興福寺が関所を置いて通行料をとった							
1333	南朝	元弘3	北条氏滅ぶ							『太平記』 楠木正成軍と幕府軍との戦い ... 尼崎合戦・坂部合戦(1332年) 楠木正成と足利尊氏の戦い(湊川の合戦) 征夷大將軍足利義詮の本陣(大覚寺・旧尼崎町)	pp.36-39
1338	南北朝	建武5	足利尊氏が京都に幕府を開く 南北朝の対立								
1339	南北朝	暦応2		摂津の守護赤松円心に対して長洲荘の住民の反抗がおこる							
1345	南朝	興国6	『太平記』このころより30年ぐらいの間に成る。								
1420	室町	応永27						尼崎を通った朝鮮使節(「応永27年朝鮮使節宋希璟のみた尼崎地方」『老松堂日本行録』)	p.25-27		
1461	室町	寛正2		土豪・田能村大和守が用水をめぐって春日社領原田荘(伊丹)と争う				用水をめぐる争い・田能村大和守	p.27		
1467	室町	文正2	応仁の乱がおこる 蓮如が石山に本願寺を建てる	応仁の乱で尼崎若衆が大内勢と交戦する							
1520	室町	永正17		このころ細川高国と細川澄元が尼崎で交戦する							
1531	室町	享禄4						細川氏一族の争い「大物くつれ戦跡」碑	p.28		
1532	室町	享禄5		一向一揆衆が松井宗信勢に大勝する							
1567	室町	永禄10		ポルトガル人、ルイス・フロイスがキリスト教伝道のため尼崎に来る							
1569	室町	永禄12		尼崎衆が織田信長と戦い敗れる				富松城、塚口城と織田信長	p.29		
1575	安土桃山	天正3				用水の開発(三平伝説)	4年 p.61-65	三平伝説	p.42		
1578	安土桃山	天正6						荒木村重・伊丹の有岡城と織田信長	p.29-30		
1580	安土桃山	天正8		荒木村重の一族が七松で信長によって虐殺される					p.30		
1582	安土桃山	天正10		本能寺の変で織田信長が明智光秀に討たれる						『太閤真蹟記』『絵本太閤記』(豊臣秀吉が大物町の広徳寺に逃れ、栖賢寺にて剃髪して味噌をする。)	pp.39-41
1590	安土桃山	天正18	豊臣秀吉が全国を統一する								
1592	安土桃山	天正20						三平井組と大井組の水争い	p.39-41		
1594	安土桃山	文禄3		尼崎一円で検地が行われる(太閤検地)							
1603	江戸	慶長8	徳川家康が江戸に幕府を開く								
1607	江戸	慶長12						朝鮮通信使と尼崎藩	p.57		
1615	江戸	慶長20						尼崎藩とその領地	p.33		

1617	江戸	元和3		戸田氏鉄が尼崎藩主となり、5万石を領有尼崎城築城工事がはじまる		尼崎城絵、尼崎城の石垣(写真)	3年 p.117	尼崎城とその城下町	p.31-32		
1627	江戸	寛永4		このころから、摂津・和泉・紀伊の漁民が関東・九州・四国・中国地方に出漁するようになる				尼崎・西宮の漁民が房総半島で鰯漁を行い、干鰯の生産・販売をする	p.58-59		
1635	江戸	寛永12						戸田氏鉄の農民政策(郷中諸法度) 西国街道、中国街道、有馬街道(尼崎を通っていた街道)	p.34-35		
1639	江戸	寛永16	鎖国令の完成								
1640	江戸	寛永17			国学者・契沖が尼崎城下で生まれる					国学の祖 契沖(けいちゅう) 契沖の生涯 契沖の業績と著述 (『万葉代匠記』『古今和歌余材抄』『百人一首改観抄』)	pp.42-43
1653	江戸	承応2				新田の開発(道意新田)	4年 p.67-70	町人による新田開発(道意新田他)	p.43-44		
1669	江戸	寛文9		尼崎藩主青山氏によって新田開発すすむ道意新田が開かれる							
1692	江戸	元禄5						オランダ商館長ケンペルの見た「尼崎の城と町」	p.36		
1695	江戸	元禄8		尼崎町で生魚問屋が営業をはじめた 綿と菜種の栽培がさかんになる				中在家町の魚問屋	p.60-61		
1698	江戸	元禄11						万多羅寺村・宗旨人別帳 万多羅寺村年貢皆済目録	p.37-39 p.125		
1709	江戸	宝永6			近松門左衛門が「おなつ笠もの狂」を著す					近松門左衛門の墓(広済寺) 近松門左衛門の生い立ち、作品、作品の中の尼崎	pp.43-46
1716	江戸	享保1	徳川吉宗が将軍となる 享保の改革 新田開発、商品生産のひろがり								
1724	江戸	享保9				近松門左衛門の墓 広済寺・近松記念館	3年 p.117、4年扉 4年p.79-	近松門左衛門の墓	p.62		
1729	江戸	享保14						享保の象行列(大庄村)	p.46-47		
1730	江戸	享保15		藩札の再発行をはじめた							
1734	江戸	享保19						村々の綿作率	p.53		
1737	江戸	元文2		旗本青山領の次屋、浜、水堂村などの農民が逃散した				青山領(水堂・次屋・浜・下大市・中・下新田)の農民の逃散	p.47-49		
1739	江戸	元文4						義人弥次右衛門の碑(次屋)	p.51		
1750	江戸	寛延3		このころ市域の村で水争いがたびたびおこる							
1766	江戸	明和3						武庫郡55ヵ村の農民が菜種国訴	p.54-55		
1767	江戸	明和4		桜井忠告が三代目尼崎城主となる						桜井忠告の句碑(桜井神社・八幡神社)	pp.50-51
1769	江戸	明和6		西宮、兵庫津が公収され幕府領になる(上知)							
1772	江戸	明和9	田沼意次が老中になる								
1776	江戸	安永5	上田秋成『雨月物語』刊行							上田秋成『春雨物語』(神崎の港、猪名の港) 遊女塚	pp.46-47
1781	江戸	安永10		綿の不作から農民が年貢の減免を要求した							
1783	江戸	天明3	天明の大飢饉 百姓一揆ふえる								
1787	江戸	天明7	松平定信が老中となる 寛政の改革がはじまる								
1788	江戸	天明8		干鰯の高騰で大規模な国訴が行われる							
1789	江戸	天明9			このころ西新田に寺子屋紅花堂が開設される						
1792	江戸	寛政4						西昆陽村氏田家の作り種別 収穫高・販売高	p.54		
1806	江戸	文化3		藩財政が窮乏し、年賦講をおこす							

1810	江戸	文化7		生魚問屋11軒が藩に貢加金を納め株仲間をつくる							
1818	江戸	文政1						シーボルトの見た尼崎城と町(シーボルト『江戸参府紀行』)(年不詳、文政年間)	p.36		
1823	江戸	文政6		摂津・河内1007ヵ村が木綿売りさばきについて国訴をおこす 摂津・河内・和泉1307ヵ村が菜種売買の自由を要求して国訴を行う				摂津・河内の1007ヵ村が綿の取引で国訴	p.55-56		
1830	江戸	天保1						おかげまいり	p.63		
1831	江戸	天保2		城下で「お陰おどり」がはじまる				おかげおどり	p.64		
1833	江戸	天保4	天保の大飢饉がおこる					天保の飢饉	p.65		
1834	江戸	天保5		石田小右衛門を登用し、藩政の建て直しをはかる							
1837	江戸	天保8	大塩平八郎の乱がおこる	尼崎城下東町で打ちこわしがおこる				大塩平八郎の乱の時の尼崎城下東町の騒動(「大庄屋岡本市兵衛日記」)	p.65		
1841	江戸	天保12	天保の改革がはじまる								
1853	江戸	嘉永6	ペリーが浦賀に来航する								
1854	江戸	嘉永7	ペリー再び来航横浜に上陸する 日米和親条約に調印	ロシアの軍艦が尼崎沖に停泊し、測量を始める							
1864	江戸	元治1	蛤御門の変がおこる					「残念さん」(大物公園東側墓地)	p.67	残念さん	p.52
1865	江戸	元治2		摂津・河内1263ヵ村による大規模な国訴が行われる							
1867	江戸	慶応3		城下や村々で「ええじゃないか」が激しくなる				「ええじゃないか」	p.66		
1869	明治	明治2	版籍奉還が行われる	桜井忠興が尼崎藩知事になる 大凶作、物価高騰 猪名川沿いの18ヵ村の農民が小作料と年貢の減免を要求して一揆をおこす				明治2年の農民一揆	p.71-72		
1871	明治	明治4	7月廃藩置県を行う	尼崎藩は尼崎県になる(尼崎市内に、兵庫県、尼崎県、小泉県、半原県が誕生する)				尼崎県・尼崎県庁と尼崎藩の印(写真) 「廃藩置県にいたるまでの管轄変遷図」	p.68 p.126		
1872	明治	明治5		尼崎県が兵庫県に編入される(2月)					p.68-69		
1873	明治	明治6	地租改正令が出る		尼崎最初の小学校、常松小学校が開校した			明治6年の地券(写真) 尼崎第一尋常小学校の写真(現城内小学校)	p.70 p.73		
1874	明治	明治7	自由民権運動はじまる	大阪神戸間に鉄道が開通		神崎駅(現JR尼崎駅)の写真	3年 p.104	神崎鉄橋の架設工事の写真(明治6年頃)	p.81		
1879	明治	明治12		このころから士族らがマッチ製造を始める							
1883	明治	明治16						尼崎戸長役場と町村(地図)	p.71		
1885	明治	明治18				地形図(100年前ごろの尼崎)	3年 p.101	地形図	p.141		
1887	明治	明治20						明治20年の卒業証書(小壠田小学校 ... 現下坂部小学校) 尋常科の回想談(高尾たきさんの話『尼崎市立大庄小学校創立100年記念誌』)	p.74 p.76		
1888	明治	明治21	4月25日、市制及び町村制公布								
1889	明治	明治22	2月11日、大日本帝国憲法発布	尼崎町、小田村、園田村、立花村、武庫村、大庄村ができる 尼崎紡績が設立される		尼崎紡績の写真	3年 p.107	尼崎紡績本社工場の写真(大正15年頃)	p.77		
1891	明治	明治24		川辺馬車鉄道が尼崎～伊丹間に開通				川辺馬車鉄道	p.82-83		
1894	明治	明治27	日清戦争始まる								
1897	明治	明治30						尼崎紡績の女工の生活	p.78		
1904	明治	明治37	日露戦争始まる								
1905	明治	明治38		阪神電鉄が開通				阪神電車の開通	p.83		

1906	明治	明治39						鹿児島からやってきた少女たち(尼崎紡績の女工)	p.79-80		
1909	明治	明治42		旭硝子が板硝子の製造を開始大工場の建設が続く							
1913	大正	大正2			尼崎町立実科高等女学校(現市立尼崎高校)が設立される						
1914	大正	大正3	第一次世界大戦始まる								
1916	大正	大正5		尼崎町と立花村の東・西難波が合併し、尼崎市が誕生した							
1918	大正	大正7	米騒動が起こる原敬内閣が成立	キリンビールが操業を開始 尼崎市と小田村に米騒動が起こり、365人が検挙される 市設物販売所(のちの公設市場)が開設される				尼崎の米騒動	p.90-92		
1919	大正	大正8		住友伸銅所尼崎工場設立される				実現しなかった南北を結ぶ鉄道	p.85		
1920	大正	大正9		市立職業紹介所と市営住宅できる 阪急電鉄神戸線開通する		「尼の生揚げ」写真	3年 p.107	阪急電車が急行電車を走らせる(神戸線と伊丹線の開通)多くの朝鮮人が低賃金で働く	p.83-84 p.97		
1923	大正	大正12			尼崎市立中学校(現県立尼崎高校)が設立される						
1925	大正	大正14	治安維持法と普通選挙法が公布される	日本電力尼崎発電所が運転を開始する 総同盟尼崎連合会主催で尼崎最初のメーデーが行われる				尼崎の第1回メーデー	p.88		
1927	昭和	昭和2	金融恐慌が始まる	阪神国道が開通する 乾鉄線で争議がおこる							
1929	昭和	昭和4	世界恐慌はじまる								
1931	昭和	昭和6	満州事変がはじまる								
1932	昭和	昭和7						地形図	p.142		
1933	昭和	昭和8		尼崎製鋼所が操業を始める 関西共同火力発電所尼崎発電所の運転を開始 煤煙公害反対運動おこる							
1934	昭和	昭和9		室戸台風で大被害をうけ、死者146人にのぼる				室戸台風で児童29名死亡	p.98		
1936	昭和	昭和11		尼崎市と小田村が合併				アジア最大の火力発電所 尼崎市議会と市長が公害反対運動を展開	p.95 p.96-97		
1937	昭和	昭和12	日華事変はじまる	尼崎製鉄所が設立される				尼崎製鋼所(写真)	p.116		
1941	昭和	昭和16	太平洋戦争はじまる 学徒動員体制できる								
1942	昭和	昭和17		尼崎市と立花村、大庄村、武庫村が合併 産業報国会尼崎支部が結成される							
1944	昭和	昭和19		学童疎開がはじまる				高等女学校の学徒動員(写真)	p.100		
1945	昭和	昭和20	8月15日ポツダム宣言を受諾し、無条件降伏 12月29日第1次農地改革はじまる	B29によって爆撃を受ける		空襲の跡の写真(杭瀬地区)、「塀に残る弾の痕」、「空しゅうによるひがしい」(表) そかいじどう(写真)	3年 p.110-111p.112	焼土となった尼崎、「本庁、小田地区の空襲被害状況」 「空襲の思い出」(小学校長の手記) 市内最大の地主「尼崎家」 「立花国民学校運動場の収穫(かぼちゃ)」(写真)	p.101-102 p.103-104 p.92-93 p.109		
1946	昭和	昭和21	10月21日第2次農地改革はじまる 11月3日日本国憲法が公布される	総同盟尼崎地方協議会が結成される							
1947	昭和	昭和22	3月31日教育基本法、学校教育法が公布される	尼崎市と園田村が合併 産別尼崎地区会議が結成される	学制改革によって、7つの新制中学校が誕生する	園田村合併時の尼崎市図	3年 p.103	尼崎市域の広がりとし章「生活必需物資価格表」 「発足時の新制中学校校舎」(一覧表)	p.89 p.108 p.110		
1949	昭和	昭和24						昭和24年の三和市場通のヤミ市場(写真) 「兵庫県教員の家計の赤字」	p.106 p.107		

1950	昭和	昭和25	朝鮮戦争がおこる	朝鮮戦争の特需景気で産業界が活況になる ジェーン台風で大被害を受ける				浸水した阪神国道(写真)	p.115		
1951	昭和	昭和26	対日平和条約、日米安全保障条約を締結	防潮堤の工事がはじまる							
1954	昭和	昭和29		防潮堤が完成する 尼崎市騒音防止条例を公布する 尼崎製鋼で労働争議がおこる		防潮堤をつくる	4年 p.71-73	完成した防潮堤(写真) 尼鋼の不渡事件を報ずる新聞(写真)	p.115 p.117		
1955	昭和	昭和30						『生活物資の小売価格の推移(東京都区部)』 地形図	p.117 p.143		
1956	昭和	昭和31						『小学校二部授業実施校と学級数』	p.111		
1958	昭和	昭和33						建設中の若草中学校 「中学校沿革図」	p.112 p.113		
1960	昭和	昭和35	日米安全保障条約が改定される 高度経済成長政策がとられる								
1962	昭和	昭和37		市庁舎と議事堂が新築される							
1963	昭和	昭和38		第2 阪神国道(国道43号線)が開通		開通時の43号線の写真	3年 p.113				
1965	昭和	昭和40		第10回国勢調査により人口が50万人を突破する	田能遺跡の発掘調査が行われる						
1967	昭和	昭和42	公害対策基本法ができる								
1970	昭和	昭和45		国の公害病指定地域になる							
1973	昭和	昭和48	石油危機、狂乱物価(スタグフレーション) 海洋汚染が社会問題化する	尼崎市民の環境をまもる条例できる 尼崎市公害病認定患者の救済に関する条例が制定される							
1995	現代	平成7				阪神大震災、市内の被害を表す地図	4年 p.75-78	阪神・淡路大震災	p.133-136		
1999	現代	平成11						「尼崎市年齢別公害病患者数」(表)	p.119		